



カムナガラノミチ 後編

相似象学会誌 5号

カムナガラノミチとは

「カタカムナウタヒ」

「カムヒビキ」

「カムナガラノミチ」

カタチのみえぬものではあるけれども<ミチ>はあるのだ。

道 ミの持続（チ）

ミ 実、身、味、見

三つのミ：カタカムナウタヒ・カムヒビキ・カムナガラノミチ

第八章 イハカムナ（岩理）

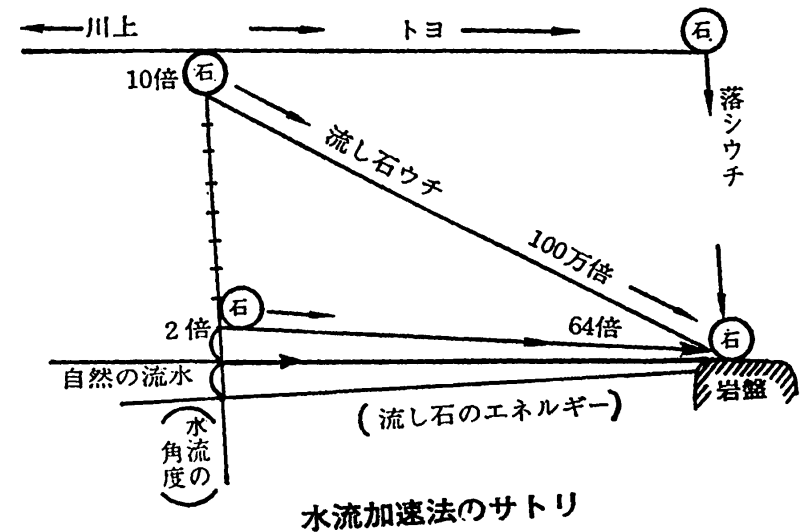
・第五十七句

カムナガラ ヤマネミトイハ イキチイハ ナガシイシウチ オトシウチ
イハメヘグミチ イハカムナ

カタカムナ人は岩にも生命があることをサトっており、岩のナリ（本性）にかなった方法で石器を作っていた。イワ、イハ、イシ。

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）奥山の峰（ヤマネ）から湧き出る水源地付近の岩（ミトイハ）は、生きている岩（イキチイハ）である。石器用の石は、この生きた岩から採るのである。そのためには「水流加速法」により流れ石を衝撃させたり（ナガシイシウチ）、落差を利用して落石衝撃（オトシウチ）を行う。それが岩理（イハメ）から岩の生命核（イハカムナ）を剥ぎとる方法である。」



第八章 イハカムナ（岩理）

• 第五十八句

カムナガラ ナガレウヅクメ カタカイシ トヨオトシワリ
ナガシワケ イハメヘグミチ イハカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）水流の下に埋まって頂部だけ出ている岩（ウヅクメ）は、堅い石（カタカイシ）である。この堅い石に何回も（トヨ）流石の落下衝撃を加えて破碎し（オトシワリ）加速流水法で石を選り分ける（ナガシワケ）。それが岩理（イハメ）から岩の結晶核（イハカムナ）を剥ぎとる方法である。」



イハメの断面

----- (サヌキ)
+++++ (アワ)
————— (電気的には計れぬ別種の結晶)

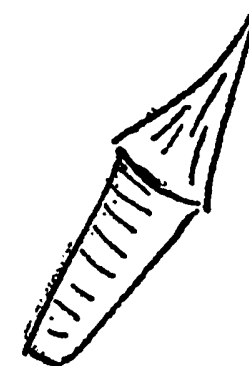
第八章 イハカムナ（岩理）

- 第五十九句

カムナガラ イシサケクダケ ノコルサネ トガリスリトギ
メウチトリ イハメヘグミチ イハカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）オトシワリによって衝撃された岩は裂け砕けて、岩の内核部の結晶の堅い部分が残る（サネ）。そのサネを砂で擦り研いで、先端の尖りのあるところ（メウチ）を採る。それが岩理（イハメ）からサネ（イハカムナ）を剥ぎとる方法である。」



メウチの例

第八章 イハカムナ（岩理）

- 第六十句

カムナガラ サネマクカケラ コイシマゼ トヨナガシモミ
ツチツクリ イハメヘグミチ イハカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）内核（サネ）を取り巻いている外側の破碎片（サネマクカケラ）は、たくさんの小石を交えて、一緒に何回も（トヨ）水流で揉む（ナガシモミ）ことによって角がとれ石鎚が作られる。それが岩理（イハメ）から岩の生命核（イハカムナ）を剥いで石器を作る方法である。」



ツチの例

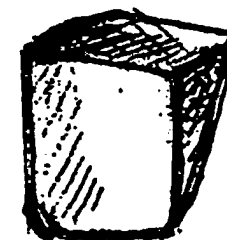
第八章 イハカムナ（岩理）

- 第六十一句

カムナガラ サケメツライシ ナガシワケ メウチツチウチ
テオノトリ イハメヘグミチ イハカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）オトシワリで砕いた堅い石の中の裂けた部分（サケメ）が平らな薄い両面になっている片石（ツライシ）を、水流を利用して選び分け（ナガシワケ）それをメウチや石鎚で細工して（メウチツチウチ）手斧（テオノ）を作る。それが岩の層（イハメ）からサネ（イハカムナ）を剥ぎとって石器を作る方法である。」



テオノの例

第八章 イハカムナ（岩理）

- 第六十二句

カムナガラ ウルハシノツヤ マルカイシ メウチツチウチ タマツクリ
イハメヘグミチ イハカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）美しい光沢のある（ウルハシノツヤ）丸い形の石（マルカイシ）はメウチや石鎚を用いて（メウチツチウチ）珠玉に作り上げる（タマツクリ）。それが石器を作るサトリに基く方法である（イハメヘグミチ イハカムナ）。」

第八章 イハカムナ（岩理）

- 第六十三句

カムナガラ カタカイタイシ オノヘグシ メウチツチウチ カタチドリ
イハメヘグミチ イハカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）材質が堅くイハメが層的に重なった板石（カタメイタイシ）は、斧を用いてイハメを剥ぎ（ヘグシ）メウチや石鎚を使っていろいろな形に整える（カタチドリ）。それは石器を作るサトリに基く方法である（イハメヘグミチ イハカムナ）。」

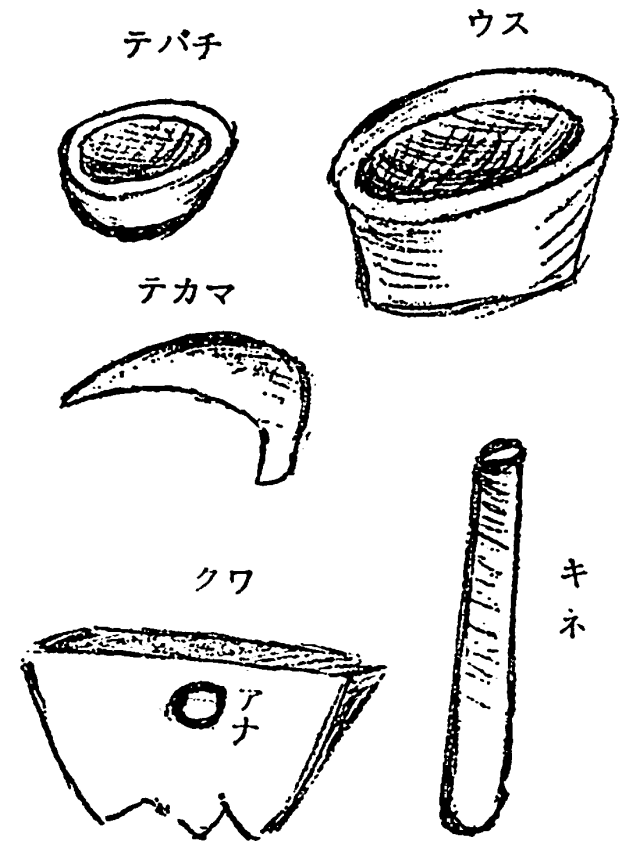
第八章 イハカムナ（岩理）

• 第六十四句

カムナガラ カタチトリイシ メウチカキ ウ
スキネテバチ テカマクワ イハメヘグミチ
イハカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）あらかじめ形どりした材料は（カタチトリイシ）メウチを用いて欠き取り（メウチカキ）臼、杵、手鉢、斧などを作る（ウスキネテバチテカマクワ）。それは石器を作るサトリに基く方法である（イハメヘグミチ イハカムナ）。」



第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第六十五句

カムナガラ ササコネコジリ タガヒラキ トロサゴマジリ イケコヤシ
タガラモリミチ ヤサカナリ

農業の道（タガラモリミチ）である、上古代に既に高度の農業技法があったと思われる。

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）笹や木の根を掘り返して（ササコネコジリ）田浦を開墾するとき（タガヒラキ）泥に砂を混ぜること（トロサゴマジリ）乾燥していない青草などの生の肥やし（イケコヤシ）を施すことが必要である。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第六十六句

カムナガラ アカシチクヌネ ヌルミトコ カザククキムロ トロクスミ
タガラモリミチ ヤサカナリ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）土壌の電気が持続的に発生する基（アカシチクヌネ）や田底の温度が高まる基（ヌルミトコ）は、泥の内部に空気砲を加着させる気孔（カザククキムロ）を多く造ることによって、泥の薬効分（トロクスミ）を増やすところにある。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第六十七句

カムナガラ ツユシモヤハタ タシロカキ タマナリカタメ ミトクマリ
タガラモリミチ ヤサカナリ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）田浦（タガラ）が露や霜の害を受けて漏水することを防ぐために（ツユシモヤハタ、ヤハタ＝破れた田）泥和作業（タシロカキ＝泥をねじ混ぜる）によって、他の間（タマ）田浦の状態（ナリ）を固め（カタメ）水の戸（ミト）を限る（クマリ）＝水漏れをなくす、が必要である。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第六十八句

カムナガラ カヤナリトヨチ ミタツタガ ヒムケヒビワレ オトシホシ
タガラモリミチ ヤサカナリ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）稔り（カヤナリ）を豊かに（トヨ）持続（チ）する、熟成田（ミタツタガ）を作るには、田浦の水を落として乾しあげ（オトシホシ）太陽の光に当てて（ヒムケ）田底にヒビワレを生じさせる必要がある。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第六十九句

カムナガラ タケホトヨタナ トヨミムス ヌルミサカヒヘ ヨノマアサ
タガラモリミチ ヤサカナリ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）健全な穂（タケホ）を豊かに（トヨ）着ける稲草（タナ）の生育や、収穫の多い実（トヨミ）を発生する（ムス）働きは、田底の温度が高く（ヌルミ）逆に気温が冷える（サカヒヘ）夜間から朝にかけての間（ヨノマアサ）に行われる。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第七十句

カムナガラ ハヤメハヤタマ タケホイネ ワカツククナネ ネハシキリ
タガラモリミチ ヤサカナリ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）稲の成長を促進して（ハヤメハヤタマ）健全に稲草を作るには（タケホイネ）分けつする個々の自由な芽（ワカツククナネ）の先端を切り落とすことである（ネハシキリ）。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第七十一句

カムナガラ イナホタカチホ オモホツミ シツエワキカブ キザミタチ
タガラモリミチ ヤサカナリ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）稲穂の長く伸びた（イナホタカチホ）重い実のつく（オモホ）稲草の個々（ツミ）を作るには、下方の枝葉（シツエ）脇株（ワキカブ）を、断ち落とす（キザミタチ）必要がある。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第九章 タガラモリミチ（農業技法）

- 第七十二句

カムナガラ ハヤマムシトメ トヨカサミ トガリサホサシ カザチヨリ
タガラモリミチ ヤサカナリ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）稲草に対する虫や鳥の害を防ぎ（ハヤマムシトメ）稔の収穫を増すには（トヨカサミ）尖端装備の竿（トガリサホ）を田浦周辺に差し立てて（サシ）空気イオンを調整する（カザチヨリ）必要がある。それは自然の相互繁盛の法則（ヤサカナリ）に従った農業技法（タガラモリミチ）である。」

第十章 キメカムナ（木理）

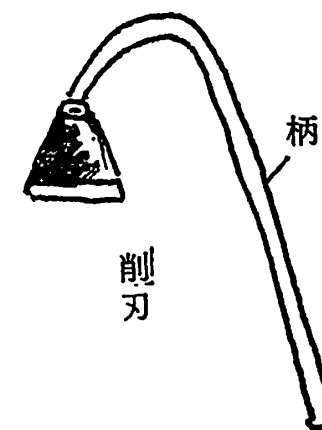
• 第七十三句

カムナガラ モモチアシミキ マキワクラ チヨカツキツム
サエビワケ タクミツキミチ キメカムナ

木理（キメカムナ）。キメとは立樹のモクメの意で年輪のことではない。年輪にあたるのはマキワという言葉。木の成長は横に肥大すると同時に縦にも伸長して「キメ」となる。

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）山林にある多くの種類（モモチ）の立樹（アシミキ）における巻輪（マキワ）の位置（クラ）は、削り斧（チヨカ）で軽く突き削るときに伴う裂きそぐ音（サエビ）によって判断できるのである。それは無限界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」



チヨカ

第十章 キメカムナ（木理）

• 第七十四句

カムナガラ イヤスガタカビ ツヌコリメ シヅヌハシラギ オキハリキ
タクミツキミチ キメカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）大きく高音で、しかも清々しく、雑音のない冴えた響（イヤスガタカビ）は、キメに分かれ目のない（ツヌ）、縦筋の長く通った材質の緻密（コリメ）部分である。したがってチョコカで立樹のどこを突いても澄んだ甲高いサエビを立てるような木は、鎮座用の柱（大黒柱、シヅムハシラギ）や長梁木（オキハリキ）に適した材質である。それは無限界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」

第十章 キメカムナ（木理）

- 第七十五句

カムナガラ アハケフトハビ タマヨリメ カムトコタナキ トコクラギ
タクミツキミチ キメカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）短く淡い気配の（アハケ）太い破裂音（フトハビ）を出す部位の材質は、球状の寄りめ（タマヨリメ）であり、柱には向かぬが、床下のタルキや大引き（カムトコ）や柵木（タナキ）、又は床張り用の材質（トコクラギ）に適している。それは無限界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」

第十章 キメカムナ（木理）

- 第七十六句

カムナガラ チビキソレハビ アヤクメミ ヤヘシロツリキ ホコタテキ
タクミツキミチ キメカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）音が長くあとをひいて（チビキ）遠くまで拡がりわたるように放つ響（ソレハビ）を出す部位の材質は、綾に組み合ったキメの（アヤクメミ）材質であり、荷重が幾重にも（ヤエシロ）懸かる吊木（棟梁）、又は矛や盾（ホコタテ）用材（天井長押など）に適している。それは無限界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」

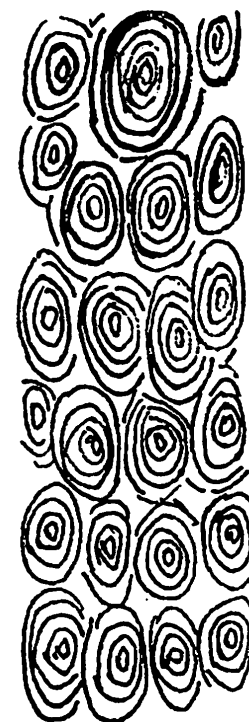
第十章 キメカムナ（木理）

• 第七十七句

カムナガラ アラホコモリビ カチウヅメ ワタシカツラギ
コマチヌキ タクミツキミチ キメカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）荒い調和音（アラホ）の内にこもった響（コモリビ）を発する部位は、渦巻状のカタチが連なっているメ（カチウヅメ）の材質であり、横に渡して組み合わせる木（ワタシカツラギ・鴨居や敷居）の用材や木と木の間（コマ）を続けて貫く木（チヌキ・柱を接続する貫材）に適した材質である。それは無境界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」



カチウヅメ

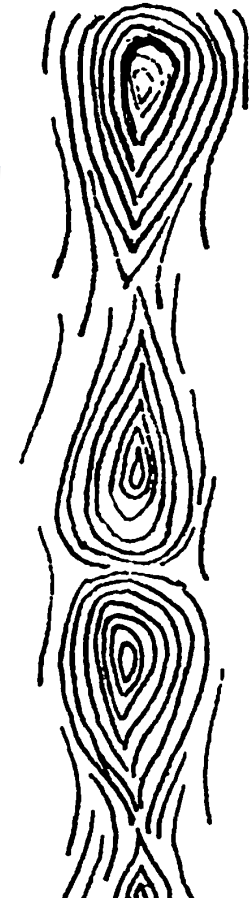
第十章 キメカムナ（木理）

• 第七十八句

カムナガラ サザミニニケビ サカヲサメ ハメフキユカキ
ホコスミヤ タクミツキミチ キメカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）小さな入り混じった（サザミ）鈍い気配の響（ニニケビ）のする部位は、逆向き（サカ）の長い（ヲサ）紋状の木理（メ）になった材質であり、壁張材（ハメ・羽目板）屋根葺き材（フキ）床材（ユカ）や燃料用材（ホコスミ）に適している。それは無限界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」



サカオサメ

第十章 キメカムナ（木理）

• 第七十九句

カムナガラ オオウラヤレビ マガヨネメ アガチトマハギ ウケタツキ
タクミツキミチ キメカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）大きい裏声のような（オオウラ）甲高い破れ裂くような音（ヤレビ）を発する部位は、曲がって（マガ）ねじれくねった（ヨネ）木理（メ）のある材質であり、框戸（アガチド）や窓枠（マハギ）、又は土台地回り材（ウケタツキ・古語）に適している。それは無限界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」

第十章 キメカムナ（木理）

- 第八十句

カムナガラ スガルウツロビ オヒソヘメ イツクシハニキ ミシロホギ
タクミツキミチ キメカムナ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）衰え枯れた（スガル）軽い虚の響（ウツロビ）のする部位は、老化した（オヒ）添理（ソヘメ）のある材質であり、土壌（ハニ）へ帰して樹木肥料（イツヒシ）にすべき材質である。それは無限界の支配（カムナ）によって発生する天然の木理（キメ）に従った大工の技法（タクミツキミチ）である。」

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

• 第八十一句

カムナガラ オロシホムロギ カナメヤキ ホコネクシカネ タルミタメ
カタシフキミチ カムヒルメ

タタラフキ以前の技法。古事記にある「カヌチ」とは鍛工であるが、「カタシフキ」は溶鉱、冶金、精錬を兼ねた技法。

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）山頂から吹き下ろす強風（オロシ）を利用して山の斜面に設けた焼き物用の炉（ホムロギ）にて、カナメヤキ（金属分を含む鉱石を焼くこと）をする。それは、火山から熔出した自然の鉄塊（ホコネクシカネ、またはオロチホコカネともいう）を焼いて、その塊の表面から溶けてタラリタラリと流れ落ちる滴下鉄（タルミ）を溜める方法である。それは天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き（カタシフキミチ）である。」

武士の魂である日本刀を作るために、なくてはならない材料「玉鋼」。

純度が高く、錆びることを知らないこの貴重な鉄は、1300年の時を超え、古より奥出雲に伝わる「たたら吹き」という日本独自の製鉄技術でしか生み出せない究極かつ無二の鉄である。

大自然が恵む天然材料と人間の力だけで作るその技は、現代の最先端技術をもってしても再現不可能な高度な技術。

出雲で採れる良質な砂鉄と木炭を、土で築いた炉で三昼夜もの間、燃焼させることによって鉄を作り出す。

「たたら吹き」にはマニュアルなど一切なく、経験と勘に基づいた人間の五感のみで行われる。

「たたら吹き」のすべてを取り仕切るのは、「村下（むらげ）」と呼ばれるたたらの技を受け継ぎし者。三昼夜、不眠不休で炉の炎に向き合い、息吹を吹き込み、鉄をまるで生き物のように生み出す。

大地の命、森からの命を得て、「玉鋼」という命へ。

唯一無二の玉鋼は、刀匠によって侍の魂「日本刀」になる。

そこに携わるすべての人間もまた、命懸け。

命はつながっていく、日本刀という神聖な命に……

玉鋼は、大量生産できるものではない。

「たたら吹き」には、世界最高の希少な鉄を作る使命がある。

玉鋼は現在でも全国の刀匠に分配され、日本が誇る伝統技術とともに、かけがえのない日本の心を伝えている。



引用：<https://tatara-samurai.jp/tatarabuki/>

© 2023 カタカムナ音伝協会 出典：相似現象学会誌

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

- 第八十二句

カムナガラ タルミクロカネ クリケカネ ホホコツキタキ アカネヤキ
カタシフキミチ カムヒルメ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）タルミの黒い色の鉄塊（クロカネ）と栗毛色の針状鉄（クリケカネ）を火床の焰（炎・ホホコ）の中にて風を送って焚き焼きを行い、アカネの色（赤褐色）になるまで加熱する（アカネヤキ）。それは天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き of 技法（カタシフキミチ）である。」

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

- 第八十三句

カムナガラ アカホカゲウチ ホホデヤキ クスミクロカネ シラミソゲ
カタシフキミチ カムヒルメ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）アカネヤキした銑鉄状の鉄塊を、赤い焰の火（アカネ）で焼きながら、焰のカゲで金槌で打撃し（カゲウチ）そしてさらに焰の中で焼く（ホホデヤキ）。この加熱法によって鉄の材料は、今までの艶のない黒色の銑鉄の状態（クスミクロカネ）から、白味を添えた粗鋼（シラミソゲ）の段階に進むのである。この加熱法は天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き of 技法（カタシフキミチ）である。」

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

- 第八十四句

カムナガラ ハラヒツチウチ カガビヤキ アワセオモツチ カタミシメ
カタシフキミチ カムヒルメ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）粗鋼（シラミソゲ）の段階に進んだ鉄塊を、白色の輝きのある焰で加熱し（カガヒヤキ）その熱が冷めるまで連続的な打撃（ハラヒツチウチ）を行い、それからもう一度高音で焼成する。そして重い鉄槌で調子を合わせながら打撃して（アワセオモツチ）形身を締めるのである（カタミシメ）。これにより材料を密着させて塊を縮小させる。それは天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き
の技法（カタシフキミチ）である。」

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

- 第八十五句

カムナガラ ハニドロマツシ モドシヤキ カカラツチウチ タメナホシ
カタシフキミチ カムヒルメ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）形身を締めた鋼材に焼いた土の泥を塗って（ハニドロマツシ）焼鈍（モドシヤキ）する。そして高い響きの音を出させながら（カカラ）鉄槌で回し打ちをして（ツチウチ）鋼材の形の歪を矯正するのである（タメナホシ）。それは天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き of 技法（カタシフキミチ）である。」

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

- 第八十六句

カムナガラ ホザシククウチ ニギミヤキ サワシユケイレ アブリヤキ
カタシフキミチ カムヒルメ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）矯正した鋼材を燃焼している火床に差し入れ（ホザシ）自由に引き出して打撃すること（ククウチ）を繰り返し材質の熟成的焼成（ニギミヤキ）をする。そして熟成湯の池に入れ（サワシユケイレ）徐々に冷やし、またそれを焰焼き（アブリヤキ）すなわち、火床のそばに置いて徐々に加熱するのである。それは天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き of 技法（カタシフキミチ）である。」

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

- 第八十七句

カムナガラ クスミホコトコ ナメシヤキ ハノビヨセウチ カタハツケ
カタシフキミチ カムヒルメ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）焼結度を高めた鋼材を火焰のたたない火床（クスミホコトコ）にて引き伸ばし焼き（ナメシヤキ）を行い、鉄板の伸びが一方に偏るように寄せ打ちを施し（ハノビヨセウチ）片刃をつける（カタハツケ）のである。それは天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き of 技法（カタシフキミチ）である。」

第十一章 カムヒルメ（製鉄法）

- 第八十八句

カムナガラ カガビホコトコ ホシラヤキ スメロユケイレ キヨミウチ
カタシフキミチ カムヒルメ

意味

「カタチは見えぬものではあるけれど（カムナガラ）片刃の刃物を焔めく火の火床（カガビホコトコ）で、白色焰の高音にて加熱し（ホシラヤキ）それを統湯の池に入れて焼き入れ（スメロユケイレ）を行う。そしてハサミにて刃物の上端を押さえ仕上げ打ち（キヨミウチ）をする。それは天然の（カム）溶解理（ヒルメ）にかなった、鍛冶吹き技法（カタシフキミチ）である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第八十九句

カムナガラ ヒノキアマカハ ツラネハギ ウッチヤニカキ マスジクリ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）檜の形成層皮（アマカハ）を長く連続させて剥ぎ取り（ツラネハギ）アマカハの内部に含まれた（ウッチ）ヤニを掻き落として（ヤニカキ）まっすぐな筋を操り集める（マスジクリ。それは草葉の繊維編みの仕組み、草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第九十句

カムナガラ アシアサクキミ ヤリサラシ タグリヨリカケ ナガタラシ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）アシのように丈が高く伸びた麻の茎身（アシアサクキミ）を流水にて洗い繊維を取る（ヤリサラシ）ものを、手揉みしながらヨリを掛け（タグリヨリカケ）それを逆さ吊りして乾燥させる（ナガタラシ）。それは草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第九十一句

カムナガラ ヤソスジタラシ ネリツムギ チクラオシオキ ニギナメシ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）いろいろな長さの異なる麻の繊維（ヤソスジ）のタラシモノを練りながら糸に結び（ネリツムギ）その糸を重しをかけて置く場所（チクラ）にて荷重を加える（オシオキ）をして、繊維の柔軟性を出させる（ニギナメシ）。それは草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第九十二句

カムナガラ ツムギイトスジ キザミユヒ アサコユフハリ カジキウチ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）以上のようにして紡いだ麻糸を（ツムギイトスジ）縦横だんだんに（キサミ）編織（ユヒ）して、麻子由布張（アサコユフバリ）を作り、梶木打ち（カジキウチ・細い平板にて表面を打つ）をする。それは草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第九十三句

カムナガラ ククハナハタケ ワタツムギ ヒナタカゲホシ カタミユヒ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）白い花がはだけ開いて絡み合い入り混じり毛となっているもの（ククハナハタケ）つまり綿、綿を紡いで、それを日向ぼしと陰干しで乾燥させ（ヒナタカゲホシ）固目に編み織りする（カタミユヒ）。それは草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第九十四句

カムナガラ カタミフトユヒ モモテウチ ヤワシシラタヘ シタミケシ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）固目に織った綿布（カタミフトユヒ）を何度も手で打って（モモテウチ）柔らかく手触りよくしたもの（ヤワシシラタエ）は下着用（シタミ）の衣類（ケシ）にする。それは草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第九十五句

カムナガラ コユフアサユフ キシブヌリ ササラヤソウチ コワリハリ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）木の皮（コユフ）の麻を織ったぬ布地（アサユフ）などに木渋、タンニンを塗り（キシブヌリ）、竹を細かく割った道具で（ササラ）幾度も押し打ち（ヤソウチ）する。そしてその布地に伸子張り（コワリハリ）をする。それは草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十二章 マツロユフミチ（服織法）

- 第九十六句

カムナガラ カムリキソデキ ウデナヌヒ ハカマタレコミ ツヅリヌヒ
マツロユフミチ カヤアヤメ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）冠着（カムリキ）や袖着（ソデキ）は型代（ウデナ）に密着させて縫い、ズボンのようなものや前後に垂らすサガリ着（ハカマタレコミ）は綴り縫いをする（ツヅリヌヒ）。それは草綾理（カヤアヤメ）に合った服織（マツロユフ）の技法である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第九十七句

カムナガラ アマネフタハシ ミチタリヌ アオアカヤコト マギナガレ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）すべてのもの（アマネ）に正反の二つの端（フタハシ）があるように、充足した状態（ミチ）と不足な状態（タリヌ）がある。そのような正と反の極限（ヤ）の間には循環する（コト）希求（マギ）の流れ（ナガレ）、すなわち、需要と供給の流れが生じる。それは正反対向発生 of 相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第九十八句

カムナガラ オオチスクナチ トコロカへ ナガレシホドキ ハカリカへ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）商いは物の多いところ（オオチ）と少ないところ（スクナチ）との交換（トコロカへ）であり、マギの流れの汐期（ナガレシホドキ）を計って交換することである（ハカリカへ）。それは正反対向発生 of 相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第九十九句

カムナガラ ハテヌハミシロ ヤカリモノ タガラタナモノ ウカリモノ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）再現のない食料の商い（ハテヌハミシロ）には、野狩もの（ヤカリモノ・鳥や獣）があり、穀物や果物（タガラタナモノ）、海狩物（ウカリモノ・魚介、海藻等）などがある。それは正反対向発生の相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第百句

カムナガラ ツクリツキシロ クラシモノ マワリテメグル ウツリモノ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）日常生活の衣類や用具（クラシモノ）の制作材（ツクリ）や加工築造材料（ツキシロ）は、生産と消耗の循環（マワリテメグル）的変遷物（ウツリモノ）である。それは正反対向発生の相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第一百句

カムナガラ ハヤリウツリミ アラタモノ カクレカギリミ ウツロモノ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）流行りや変遷（ハヤリウツリミ）の新製品（アラタモノ）は、やがて姿を消す限界のあるもの（カクレカギリミ）であり、うつろいやすいもの（ウツロモノ）である。それは正反対向発生 of 相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第百二句

カムナガラ タタヘタシカメ クダレノケ コノミサワヨセ ツキシナヘ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）商いの品はその耐久性を確かめ（タタヘタシカメ）品傷めのもののをのけて（クダレノケ）客の好みにあったものを多量に寄せ集め（コノミサワヨセ）常時備えておく必要がある（ツキシナヘ）。それは正反対向発生 of 相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第百三句

カムナガラ ヒトヨヤホロツ トモササヘ アタヒサヅカリ タヨリサチ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）人間社会（ヒトヨ）はあらゆるもの（ヤホロツ）の支え合い（トモササヘ）によって成り立つものである。商いの儲け（アタヒ）は他から与えられたもの（サヅカリ）である。他からの信用に基づく幸である（タヨリサチ）それは正反対向発生の相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」

第十三章 モロアキドミチ（商人道）

- 第百四句

カムナガラ タヨリツチカヒ マギツカヘ ムツミイヤマヒ ヤヘツカヘ
モロアキドミチ ムカヒナリ

意味

「カタチは見えぬサトリではあるけれど（カムナガラ）商人の信頼や信用（タヨリ）を培うためには（ツチカヒ）、需要者（お客様）と供給者（仕入れ先）との両方の要求（マギ）に奉仕する（ツカヘ）気持ちが大切であり、親和し（ムツミ）尊敬する心（イヤマヒ）を忘れず、幾重にも奉仕する態度（ヤヘツカヘ）が重要である。それは正反対向発生の相似形（ムカヒナリ）であり、諸々の商人が知るべき道（モロアキドミチ）である。」